

2023年7月21日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【ゴム製品】他社牽制力ランキング 2022

トップ3はブリヂストン、住友ゴム工業、横浜ゴム

弊社はこのほど「ゴム製品業界」の特許を対象に、2022年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別 ※に集計した「ゴム製品業界他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2022年に最も引用された企業は、1位 **ブリヂストン**、2位 **住友ゴム工業**、3位 **横浜ゴム**となりました。

【ゴム製品業界 他社牽制力ランキング 2022 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	ブリヂストン	863
2位	住友ゴム工業	630
3位	横浜ゴム	594
4位	TOYO TIRE	272
5位	住友理工	269
6位	MICHELIN	102
6位	バンドー化学	102
8位	ニッタ	63
9位	THE GOODYEAR TIRE & RUBBER	61
9位	三ツ星ベルト	61

※ 当ランキングは、企業グループを考慮した名寄せ処理を用いて算出しています。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022年12月までに公開された全特許のうち、2022年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **ブリヂストン**の最も引用された特許は「作業性及び環境衛生上にも優れ、従来より更に高弾性かつ低発熱性を持つタイヤ」に関する技術で、大塚製菓の計6件の審査過程で引用されています。このほかには「重荷重用空気入りタイヤ」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、TOYO TIREの計5件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、ブリヂストンの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は住友ゴム工業（154件）、次いで横浜ゴム（84件）、TOYO TIRE（79件）となっています。

2位 **住友ゴム工業**の最も引用された特許は「ウェットグリップ性能、ドライグリップ性能、及び耐久性をバランス良く改善できる空気入りタイヤ」に関する技術で、ブリヂストンや日本ゼオンなどの計6件の審査過程で引用されています。このほか「ビード部の耐久性を向上できる空気入りタイヤ」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、TOYO TIREの計5件の拒絶理由として引用されています。

2022年に、住友ゴム工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は横浜ゴム（99件）、次いでTOYO TIRE（88件）、ブリヂストン（85件）です。

3位 **横浜ゴム**の最も引用された特許は「軽量化と極低周波域のロードノイズの問題を両立するようにした空気入りタイヤ」に関する技術で、住友ゴム工業の「重荷重用タイヤ」関連特許など計5件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022年に、横浜ゴムの特許により影響を受けた件数が最も多い企業は住友ゴム工業（137件）、次いでブリヂストン（91件）、TOYO TIRE（83件）となっています。

4位 **TOYO TIRE**は「外観性を向上した空気入りタイヤ」、5位 **住友理工**は「防音部材」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【ゴム製品業界 他社牽制力ランキング 2022 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データ一式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL：<https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail：info@patentresult.co.jp